

市では、市民の皆さんにもっと春日井の魅力を知ってもらうために、中部大学と連携し、「学生から見た春日井」をテーマに魅力の発掘に取り組んでいます。今回は、公益財団法人かすがい市民文化財団が運営する「日本自分史センター」について取材しました。



全国の自治体で初めての自分史に関する施設、それが文化フォーラム春日井2階にある「日本自分史センター」。ここでは自分史活動を支援していくために、文章講座や自分史フェスタの実施など、自分史の普及・振興に関する諸事業を行っています。自分史は小説などとは違い、自分の人生の歴史を書くものこと。センターでは、全国から寄贈される自分史図書と自分史作品募集などの活動によって「日本一の自分史図書館」作りを進めており、現在の蔵書数は約8000タイトル。

## 日本の自治体で初の施設

答えは記事の中にある!探してみよう!



## Q. 自分史ってナンド?

- ① 自分の解釈で歴史を分析すること?
- ② 自分の人生の歴史を書くもの?
- ③ 自分が歴史をつくること?

## 短編自分史の作品集も!

「日本自分史センター」では毎年異なるテーマで短編自分史を全国から募集。400字からという短さから気軽に挑戦できるのが魅力で、優秀作品は一冊の本にまとめ、刊行されます。第17回を迎えた昨年のテーマは「恋したわたし」。多くの人の「恋」にまつわる素敵な作品がこの一冊に詰まっています。

## 作品が掲載された人にインタビュー



中部大学非常勤講師の林立宏先生(写真左)は、相撲との出会いと人生の柱にまつわる自分史を書かれ、その著作は昨年の作品集「恋したわたし」に採録されています。

## Q. 自分史を知ったきっかけは?

「東京作家大学で、全国公募の作品を紹介しており、そこで知りました。『恋したわたし』では、この学校に通う人から3人の作品が掲載されましたよ。」

## Q. 春日井市が行う自分史の取り組みについてどのように考えますか?

「とても意味のある企画で、さまざまな角度から自身の人生を見直すことは重要だと考えます。小説やエッセイを書く際『何をどう書くか』を検討しますが、その一つの手法に自分のこれまでを整理し、その上で今、そして将来、関心のあることを洗い出すというものがありません。自分史は、創作のために有効であるばかりか、自分を過去、現在、将来にわたって見直すきっかけになると考えます。」

「私たちが企画・制作しました!」



中部大学人文学部  
コミュニケーション学科  
(左) 松田光起 (右) 跡見美祐

問い合わせ

シティプロモーション推進室 (☎85-6335)

作品の一部は YouTube の Kasugai City チャンネル「市政だより 掌編自分史作品集『恋したわたし』」で朗読を聴くことができます。



作品集は、日本自分史センターで閲覧・貸出できる他、同階にある文化情報プラザにて 1000円で販売!